

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■ラフバラ大学研究拠点活動報告 No.1

4月1日(月)

■英国到着ラフバラ大学へ。



オフィスの確認を行った(大学はイースター休暇中)。場所は、大学の East Park にあるネットボール バドミントンセンター1 階入口左。JSC ラフバラ大学研究拠点

(Netball Badminton Center)の Office は、大学内の East Park 内にある Netball Badminton Center の1階にある(2003 年 8 月 EIS Badminton and Netball High Performance Center として開設された)。



4月2日(火)

■Prof. Ian Henry (Director Center for Olympic Studies & Research)とミーティング



今後の研究プロジェクトについて方向性および担当(案)に関して確認した。

- 1) 地域スポーツ政策
- 2) アンチ・ドーピング政策
- 3) オリンピックスタディー政策
- 4) エリートスポーツ政策

4月3日(水)

■Peter Keen (Director of Sport)とミーティング

※ 前 UK-Sport High Performance Director

約 1 時間に渡り情報交換するとともに、合同カンファレンスに関してアイデア出しを行った。さらに、他国のハイパフォーマンスセンター及び担当者を紹介してもらうこととした。



報告者：久木留 毅（文学部教授）

■Prof. Barrie Houlihan（School of Sport and Health Science Loughborough UNIV）とミーティング



研究の方向性と英国におけるスポーツ政策の現状について情報交換を行った。労働党政権から保守党政権への移行に伴うスポーツ政策のポイントについて情報提供を受けた。さらに、ラフバラ大学内におけるスポーツ部門の主要人物について情報提供を受け、紹介してもらうこととした。

4月4日(木)

■Nick Dakin（陸上競技コーチ）

陸上のハイパフォーマンスセンター並びに陸上パフォーマンスジムを視察した。  
陸上選手専用の交代浴室も設置されている。フルタイムアスリートが多く所属している。  
日本の陸上競技コーチ陣との親交も厚い(山崎氏、吉田氏/ナショナルチームコーチ)

4月5日(金)

■JSC ロンドン事務所 松葉氏、山口氏、河合氏とミーティング(ラフバラ大学にて)

今後の方向性と協力体制についてミーティングを実施した。今後、できる限り情報共有するとともに協力体制を取って行くこととした。その後、Ian Henry と 5 名にて JSC ラフバラ大学研究拠点の活動についてミーティングを実施した。

■キックオフを終えて

Mr. Keen は、前 UK-Sport High Performance Director であり多くの情報とネットワークを持っている。また、15日(月)にミーティング予定の Tim Garfield, (Deputy Director of Sport) は、前職が Sport England であったためそのネットワークを活かすことも十分考えられる。さらに、ラフバラ大学内には、Sport Park (約 16 の NGB および Youth Sport Trust が在住)があり、多くの情報を得られる可能性がある。また、Dr. Henry と Dr. Houlihan は、スポーツ政策において英国およびヨーロッパを代表する研究者である。これらのことからわずか 1 週間ではあるが、研究拠点を活用して様々なネットワーク構築の可能性を垣間みる事ができた。

Information  
And  
Intelligence

来週以降は、Dr. Henry と 1 週間に 1 回のペースでミーティングを実施することを確認した。また、研究拠点を活かした活動が実施できるよう多くの関係者(研究者、コーチ、医科学スタッフ等)とネットワークを結ぶ様に努めていきたい。